

札幌市自立支援協議会 こども部会 ニュース



NO.11

第11号 (2023年3月)

発行札幌市自立支援協議会子ども部会事務局

連絡先 〒004-0007

厚別区厚別町下野幌49

(社会福祉法人楡の会)



令和4年度の子ども部会のまとめ (金澤部会長)



コロナの感染拡大から3年が経過しましたが、対面での活動や参集が難しい現状でした。令和4年度、子ども部会は、部会委員や事務局員、関係機関の協力を得て、「社会的養護の子どもの支援」をテーマに全体研修会をオンラインで開催し、さらに「各区子ども部会の活動調査」を実施しました。(「子ども部会ニュース」報告予定)。また、「こども発達支援ガイドブック(乳幼児期)」の改定を行い近々発行する予定です。また、白石、手稲、東区では、各区の子ども部会主催の研修会が開催され、嬉しく思っています。さらに、部会内の運営では、対面での会議や打合せが難しいことから、活動内容ごとに担当制を取り入れ、効率的な事業展開を行ってきました。

今後は、ウイズ・コロナでの対応も視野に入れながら、積極的に部会活動を進めていきます。具体的には、全体研修会や支援力向上セミナーの対面での開催、地区子ども部会活動へのバックアップ、こども発達支援ガイドブック(学齢期編)の内容検討、部会内体制の改善等です。どうか、皆さんの温かな声援をお願いします。

また、視点を広げてみると、新年度4月からは「こどもまんなか社会」の実現を目的に、「こども家庭庁」と「こども基本法」が、発足、施行されます。その中の支援部門では、障がい児の支援が推進されます。子どもを真ん中において考えていく時代が始まります。大いに期待してまいります。



各委員からの報告



全体研修会の報告

社会的養護・札幌市要対協の分野から (河内委員)



子ども部会全体研修会は、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じて、昨年度と同様にリモート形式および後日アーカイブ配信にて実施しました。

今年度の研修会は「発達・こころのケアを必要とする社会的養護の子どもの現状と支援」をテーマとして、札幌市子ども心身医療センターの上田敏彦氏の基調講演のほか、社会的養護や一時保護に携わる4つの立場から実践報告を行いました。社会的養護の子どもの現状や具体的支援をわかりやすく理解でき、また各立場からの報告を通じて、多角的にその実情や支援状況を知るきっかけとなりました。研修には多くの方々に参加していただき、ありがとうございました。次年度も、実りある研修を立案します。

社会的養護関係者研修会は、子ども部会全体研修会と合同開催としました。次年度は、対面形式で事例報告やグループワークなどを通じて、皆さまと一緒に社会的養護が必要な児童の生活支援について理解を深めていきたいと考えています。



子ども子育て会議の報告（斎藤委員）

今年度は2回開催され、第2次子どもの貧困対策計画の骨子、子ども虐待防止に関する市職員の人材育成について、などを審議しました。

児童福祉部会は6回行われ、計111組の里親認定について審議しました。また、ヤングケアラー支援ガイドラインの審議、母子生活支援施設（しらぎく荘）の建て替えについて審議しました。里親認定の審議は希望者も多く、大変に難しいと感じました。

処遇部会は1回行われ、被措置児童等虐待についての児相からの報告がありました。私の勉強不足もあり、それぞれで基本的な質問をさせていただきました。



令和4年度の各区子ども部会の活動報告（各区子ども部会代表 斎藤委員）

◎東区 東区子ども部会では、8月に第11回ウェルトーク「オンライン連携会議のモデル子どもの姿を共通理解しましょう」12月に第12回ウェルトーク「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律について（学習会）」を開催しました。どちらもzoomにて約40名の参加をいただき学習と交流を行いました。特に第12回に関しては楡の会加藤総合施設長より、ご自身の経験を含めたお話しでは、想いの共有ができる良い会となりました。

◎手稲区 手稲区地域部会子どもグループでは、月に1回定例会を行い、メンバー同士が顔の見える関係を構築しながら、様々な活動に取り組んでいます。なかでも令和4年度には2回研修会を開催し、9月には児童相談所の方そして2月には養育里親の方をお招きして、大変貴重なお話を聞くことができました。夏には手稲区で毎年開催される「ていね夏あかり」の準備にも参画し、手づくりちょうちん製作の橋渡しをいたしました。

◎西区 西区子ども部会は、ここ2年間は新型コロナウイルスの影響で活動ができなままでした。一旦活動が停まっていたため、今、地域の子どもに関わる仕事をしている人は、どんな情報がほしいのだろうか？どんなことを求めているのだろうか？という、地域課題を見つけるところに立ち戻って考えるため、令和4年度は世話人会を改めて構成し、令和5年度からまた活動を再開するために、準備を進めています。

◎白石区 昨年4月に「アタッチメント基礎講座」を、9月に「幸せになるためのここから性教育」を開催しました。「アタッチメント…」は、区内の保育園・児童発達支援事業所・保健センターより多数のご参加をいただきました。「性教育」はシリーズ4回目、人権・科学・共生を基本とした「性」を学びました。放課後等デイ・小学校より多数のご参加をいただきました。



医療的ケア児検討委員会（加藤）



令和4年度は2回 医ケア児検討委員会を実施いたしました。
～令和4年8月31日・令和5年3月16日（いずれもZoom）

今年度は学齢児での課題整理を行いました。

また市立豊成・北翔支援学校の学則の変更がありました。これは、本委員会としても医ケア児支援の進捗と受け止めています。

そのほかに「北海道医ケア児支援センター」開設について、説明がありました。

これまでを振り返り、幼児期・学齢期についての支援は看護師配置箇所の増など徐々に増えつつあり、委員会の役割としての一定の成果であることを確認しています。

しかし、さらなる課題として、学齢後の支援に不足があるとの意見もあり、今後の課題として、学齢期後の支援の実態を把握する必要があることを確認しています。



事務局からのご報告

昨年に引き続きのコロナ禍ではありましたが、子ども部会の活動は計画どおりに実施できました。皆様のご協力に感謝いたします。

「令和4年度 子ども部会 活動実績」（事務局：楡の会 加藤）

- 1) 子ども部会運営委員会 : 3回開催
- 2) 全体研修会
社会的養護関係職員研修（子ども部会内部門）との共同で開催
令和5年1月30日 オンラインと会場のハイブリット開催（後日オンデマンド配信あり）
 - ①講演「発達・こころのケアを必要とする社会的養護のこどもの現状と支援」
～札幌市子どもの心身医療センター・麦の子発達クリニック
精神科医 上田敏彦 先生
 - ②実践報告 *札幌市児童相談所一時保護所の立場から
*民間一時保護所の立場から
*障がい児入所の立場から
*家庭養育の立場から
- 3) 部会内学習会
 - ①「サポートファイルさっぽろ」の活用について
→ 報告者) 札幌市教育委員会 学校教育部
学びの支援担当課 特別支援教育担当係長
(指導主事) 工藤 雅文 (くどう まさふみ) 氏
 - ②放課後等デイサービス利用児の学校出席について
- 4) さっぽろこども発達支援ガイドブック（幼児期版）の改訂・発刊
今年度は1500部作製しましたが、希望者が多いため札幌市のHPでもダウンロードできるようにしています。次年度は学齢期版の改訂を予定しています。
- 5) 子ども部会ニュース 発刊
- 6) その他：各区こども部会開催

